

SUNOCO TEAM LEMANS *#7 SUNOCO TEAM LEMANS SF14* *#8 SUNOCO TEAM LEMANS SF14*

2017年 SUPER FORMULA シリーズ
第5戦(オートポリス)レースレポート



大会概要／大会名称

2017年 全日本 スーパーフォーミュラ 選手権 第5戦 / オートポリス スーパー2&4レース 2017

開催日時

9月9日 土曜日(予選) 9月10日 日曜日(決勝)

開催サーキット

オートポリス インターナショナルレーシングコース(1周 4.674km) 住所:大分県日田市上津江町上野田1112-8

同時開催レースカテゴリー

- ・2017年 全日本フォーミュラ3選手権 第17戦&第18戦
- ・2017 N-ONE OWNER'S CUP Rd.12
- ・2017年 MFJ全日本ロードレース選手権 第7戦(JSB1000クラス/2輪)

主催

- 4輪:オートポリス倶楽部(APC) / 株式会社オートポリス
- 2輪:オートポリス倶楽部(APC) / 一般財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会(MFJ)

公認

- 4輪:国際自動車連盟(FIA) / 一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
- 2輪:国際モーターサイクルリズム連盟(FIM)

認定

株式会社日本レースプロモーション(JRP) / 日本フォーミュラスリー協会(JF3A) / Hondaワンメイクレース事務局(HORS)

協力

株式会社ブライト / 株式会社テレビ熊本(TKU)

後援

スポーツ庁 / 観光庁 / 大分県 / 熊本県 / 日田市 / 竹田市 / 菊池市 / 阿蘇市 / 柳川市 / 大津町 / 小国町 / 南小国町 / 産山村
以上の市町村の各教育委員会 / 日田市観光協会 / 竹田市観光ツーリズム協会 / 菊池観光協会 / 阿蘇市観光協会 / 柳川市観光協会
肥後おおづ観光協会 / 小国ツーリズム協会 / 杖立温泉観光旅館協同組合 / 南小国町観光協会 / 産山村観光協会

SUNOCO TEAM LEMANS 参戦体制

#7 SUNOCO TEAM LEMANS SF14

ドライバー:フェリックス・ローゼンクヴィスト

出身地:スウェーデン

生年月日:1991年11月7日

身長:169cm

体重:70kg

血液型:O型



エンタラント代表:土沼 広芳

監督:片岡 龍也

チーフエンジニア:ライアン・ディングル

チーフメカニック:甲賀 大毅

#8 SUNOCO TEAM LEMANS SF14

ドライバー:大嶋和也

出身地:群馬県

生年月日:1987年4月30日

身長:170cm

体重:62kg

血液型:A型



エンタラント代表:土沼 広芳

監督:片岡 龍也

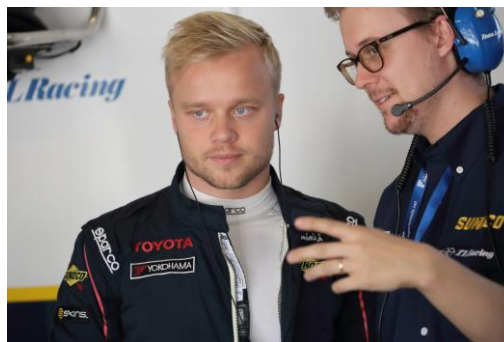
チーフエンジニア:スティーブ・クラーク

チーフメカニック:小倉 啓悟

レース情報

予選(9月9日)

天気: 晴れ / コース状況: ドライ
気温: 30度 / 路温: 44度(Q1開始時)
予選Q1開始: 13時45分



昨年は地震災害の影響で開催されなかったスーパーフォーミュラ九州大会が、今シーズン、2年ぶりにシリーズ復帰を果たした。2017年スーパーフォーミュラ第5戦は、起伏に富んだチャレンジングで雄大なオートポリス国際レーシングコースを舞台に開催される。ヨコハマ製ワンメイクタイヤでのオートポリス戦は初めてであるのに加えて、前戦から引き続きのドライタイヤ2スペック制での戦いだ。今季、上昇基調にあるSUNOCO TEAM LEMANSは、2戦連続表彰台獲得中の新人ローゼンクヴィストが初優勝を、そして決勝ペースに好感触の大嶋も今季初表彰台を狙っていく。初秋というよりは夏という日差しのもと、まずは3段階ノックアウト方式の予選にふたりが挑む。

#7 SUNOCO TEAM LEMANS SF14

フェリックス・ローゼンクヴィスト選手

予選結果: 10位(予選Q2ベストタイム: 1分27秒400)

今回のQ1は特別規則によってミディアム(スタンダード)タイヤでのアタックが義務づけられた。そのQ1は残り1分を切った勝負どころで他車のアクシデントにより赤旗中断、残り3分からの再開という展開に。ローゼンクヴィストは再開後に1分28秒649を記録して8番手、Q1突破を達成した。続くQ2ではソフトを履いて1分27秒400を出すものの、Q3進出枠のトップ8にまでは届かず、予選を10位で終える。

#8 SUNOCO TEAM LEMANS SF14

大嶋和也選手

予選結果: 15位(予選Q1ベストタイム: 1分29秒078)

金曜～土曜朝のフリー走行でソフトタイヤを積極的に試したりもしつつ予選を迎えた大嶋。ミディアムタイヤでアタックするQ1では、赤旗中断からの再開後に1分29秒078をマークするが、惜しくも0.017秒、Q2進出の14位に及ばず、予選順位は15位となった。

レース情報

決勝(9月10日)

天気: 晴れ / コース状況: ドライ
気温: 25度 / 路温: 33度 (決勝開始前)
フォーメーションラップ開始: 13時05分
決勝レース周回数: 54周



#7 SUNOCO TEAM LEMANS SF14

フェリックス・ローゼンクヴィスト選手

決勝結果: 2位(所要時間: 1時間24分30秒177、ベストラップ: 1分32秒087)

決勝日もコンディションはドライ。ソフトとミディアム、両方のタイヤを用いなければならない規則状況下で各陣営はレースを戦う。SUNOCO TEAM LEMANSは大嶋を中心に前戦、そして今回の金曜～土曜と豊富に集めてきたソフトタイヤのデータに基づき、それにエンジニアチームが綿密に計算した燃費データを合わせこんで、決勝にはソフトで長く走ることを基本とした策を練って臨んだ。

10番グリッドからミディアムで発進したローゼンクヴィストは、スタート後のポジション状況等を鑑みつつ、4周目にピットインして給油、ソフトに交換してゴールまで残り50周を走りきる作戦を採った。燃費とタイヤの「マネージングゲーム」と本人が評する走りでありつつも、今季は常に高次元にあるレースペースは健在。サブマリニックにポジションを上げていき、ローゼンクヴィストは見事に2位を獲得する。初コース続きながら、これで3戦連続の表彰台だ。シリーズランキングでは3位をキープ、首位との差を6点へと詰めることに成功した。

#8 SUNOCO TEAM LEMANS SF14

大嶋和也選手

決勝結果: 3位(所要時間: 1時間24分36秒257、ベストラップ: 1分31秒533)

初オートポリスである担当エンジニア、クラークが「ファンタスティック」と形容するコースで、ソフトタイヤをよく試してきたことも活かし、大嶋も今季定評ある決勝レースペースの良さを武器に15番グリッドから追いついていきたいところだ。スタートタイヤはミディアム。

大嶋もローゼンクヴィストとほぼ同じ戦略で走った。6周目にピットインして給油、ソフトに履きかえてゴールまで残り48周を走りきる。僚友の背中を追いかけるポジションに出た大嶋の順位も、着々と上がっていった。レース終盤にはローゼンクヴィストと2-3位の状況に。4番手以降のライバルたちが接戦している状況も味方につけ、大嶋は3位でゴールイン。復帰初年度の今季初となる表彰台を獲得した。

レース情報

フェリックス・ローゼンクヴィスト選手のコメント

今日はチームにとってハッピーな日になりました。みんなで頑張ってきた成果として2台で表彰台を獲得することができ、本当に嬉しいです。チャンピオンシップの方もトップと6ポイント差、ナイスな状況になってきたと感じています。今季は決勝でよくリカバーできていますからね。次のSUGOもチャレンジングなコースだと思います。予選が特に重要そうな印象もあるコースなので、予選でも前にいけるよう頑張ります。

大嶋和也選手のコメント

ソフトタイヤでの走行を(他車よりも多く)重ねてくるなかで、ソフト装着時のマシンバランスには自分自身とても良い感触をもっていましたし、決勝でも長く使えると考えていました。シーズン途中でエンジニアリングスタッフをさらに強化するなど、チームもいろいろと努力しているなか、3位表彰台という結果が出て良かったです。次のSUGOは自分が一番得意なコースですし、今季ここまではなんとかポイントを取らねば、と思ったりもしていましたが、ひとつ結果が出たので少しリラックスもしつつ自分の走りに集中して、またいい結果を狙っていこうと思います。

片岡龍也監督のコメント

燃費の面では決勝日の朝のフリー走行が終わった時点で、4周目以降のピットインならゴールまでいけるという数字が出ていました。あとはソフトタイヤを長く使えるのかどうかでしたが、大嶋が前戦を含めていろいろと試してきてくれていた部分もありましたし、やはり決勝日の朝のフリー走行で、(50周)もつだろう、という見解を得ることができました。順位を上げるためにも他よりアグレッシブな、早め早めの戦略を採っていく必要がありましたし、エンジニアリングチームにはいろいろな作戦の選択肢を考えてもらっていました。

ダブル表彰台という結果を得られた要因としては、まずドライバーふたりがタイヤをセーブしつつも速いラップタイムで走ってくれたことが挙げられると思います。彼らの走りがあったからこそ、ディンクルとクラークを中心にチームが立案した素晴らしい作戦が活きました。そして2台のピットストップが短い間隔で続いたなか、メカニックたちも給油とタイヤ交換の作業をしっかりとこなしてくれたと思います。展開が我々に向いた面も含めて、決勝ではそれぞれのパートでそれぞれが本当に完璧な仕事をした結果の2-3フィニッシュでした。

これであと、勝つために必要なのはやはり予選一発というところの課題だと思いますし、ここ2戦、ソフトをうまく使ってきた我々としては次からソフトがなくなることも意識して、さらにハードワークしていかないといけません。今回の結果を喜びつつ、気を引き締めていきます。

シリーズランキング

フェリックス・ローゼンクヴィスト: 3位 / 24.5ポイント

大嶋和也 : 12位 / 6ポイント

チーム(#7+#8) : 4位 / 30.5ポイント

観客動員数

開催期間中 延べ入場者数 約14,450人

9月9日 土曜日(予選日 天気:晴れ)4,400人 9月10日 日曜日(決勝日 天気:晴れ)10,050人

イベントへの参加報告

ピットウォーク

開催日程:9月9日 11:15~11:55(5分遅れで開始)

9月10日 11:10~11:55

主催:日本レースプロモーション、オートポリス

参加者:F.ローゼンクヴィスト、大嶋和也

ピットロード開放エリアにて握手&サイン会、撮影会、グッズ提供を行い、沢山の皆様をお迎えすることが出来ました。

キッズウォーク

開催日程:9月9日 17:05~17:40

グリッドウォーク

決勝レース前に実施。

